

現状の水害リスク情報や取組状況の共有

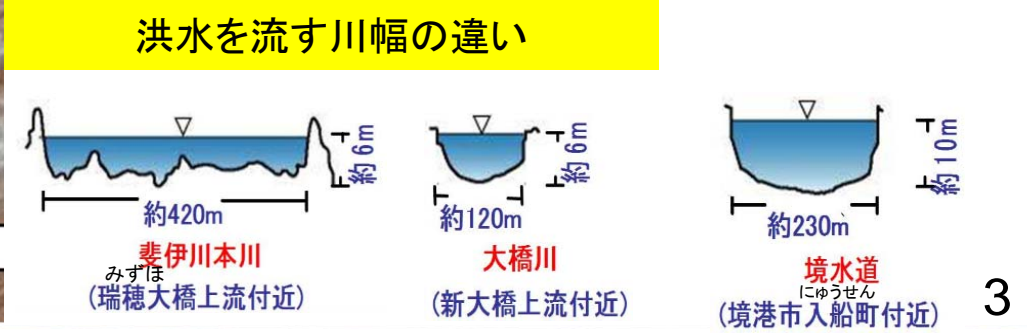
## (1) 現状の水害リスク情報

# ○河川の特性について

- 斐伊川下流部の氾濫域には多くの人口・資産、行政・医療機関、空港及び駅といった重要な公共施設を多数抱える松江市、出雲市等が存在し、大雨により氾濫が発生した場合の被害は甚大。
- 宍道湖、中海と日本海の水位差がほとんど無く、宍道湖と中海を結ぶ大橋川は斐伊川に比べて河川断面が小さい。さらに宍道湖、大橋川周辺は松江市街地等の低平地が広がっており、一度氾濫すると長期間にわたり浸水被害が継続する状況。



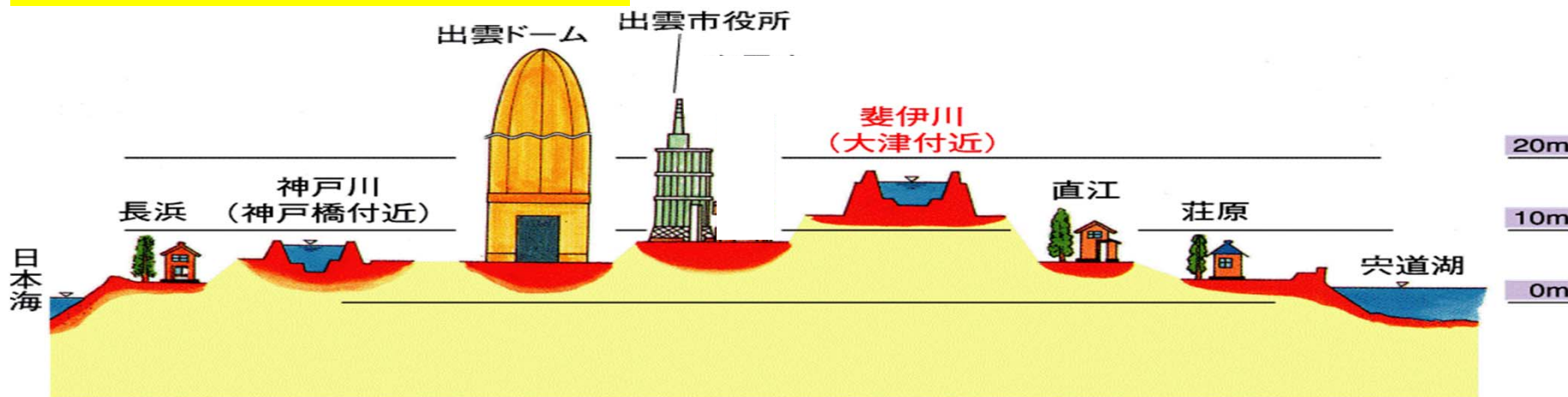
流域及び氾濫域の諸元	
流域面積	: 2,540km <sup>2</sup>
流域内人口	: 約 50万人
想定氾濫区域面積	: 約 240km <sup>2</sup>
想定氾濫区域人口	: 約 24万人
想定氾濫区域内資産額	: 約5兆4,500億円
(平成22年度河川現況調査)	



# ○河川の特長について

- 天井川であるため、越水や破堤があった場合、落差により流水の破壊力が極めて高く、他の河川に比べ家屋倒壊等氾濫想定区域が広い。
- 越水や破堤があった場合、氾濫により広範囲に土砂が堆積し、復旧に時間を要することが予想される。

## 斐伊川は典型的な天井川



## 河床が1階の屋根の高さ



天井川の状態 (斐伊川本川 西代橋上流右岸)

## 斐伊川は砂河川



水防活動の状況 (月の輪工の設置)

# ○過去の被害状況（昭和47年7月洪水の概要）

- 昭和47年7月9日～13日にかけて梅雨前線が中国地方に停滞
- 流域平均総雨量538 mm（斐伊川）、497mm（神戸川）
- 斐伊川、神戸川とも堤防決壊寸前の危険な状態
- 宍道湖の増水により、松江市や出雲平野東部をはじめとする**宍道湖沿岸が1週間以上浸水**
- 出雲空港においては10日間にわたる**全面閉鎖**、約210日間の夜間閉鎖



神戸川では、出雲市を中心に約1,300戸の家屋浸水が発生

**堤防決壊箇所**  
宍道湖沿岸で約25,000戸の家屋浸水が発生

被害状況

	神戸川	斐伊川
浸水区域	約21km <sup>2</sup>	約70km <sup>2</sup>
床上浸水	271戸	7,789戸
床下浸水	1,009戸	17,164戸
浸水家屋計	1,280戸	24,953戸

# ○過去の被害状況（平成18年7月洪水の概要）

## 平成18年7月梅雨前線出水 浸水の状況（松江市、出雲市、雲南市）

- 流域平均総雨量378 mm（斐伊川）、385mm（神戸川）
- 斐伊川本川で既往最高水位を更新
- 浸水家屋数 約1,500戸
- 松江市街地が広範囲で2日間にわたり浸水
- JR松江駅周辺が冠水し、交通機関がマヒしたため、通勤等に多大な影響
- 大橋川に架かる3橋が通行止めとなり、市内の南北交通が大きく阻害



松江市  
浸水家屋 1,427戸  
(床上212 床下1,215)  
浸水面積 629ha(内水を含む)



神戸川

出雲市  
死者 3名  
浸水家屋 198戸  
(床上133 床下65)

雲南市  
死者 1名  
浸水家屋 37戸  
(床上5 床下32)



船津町(出雲市)



玉湯町(松江市)

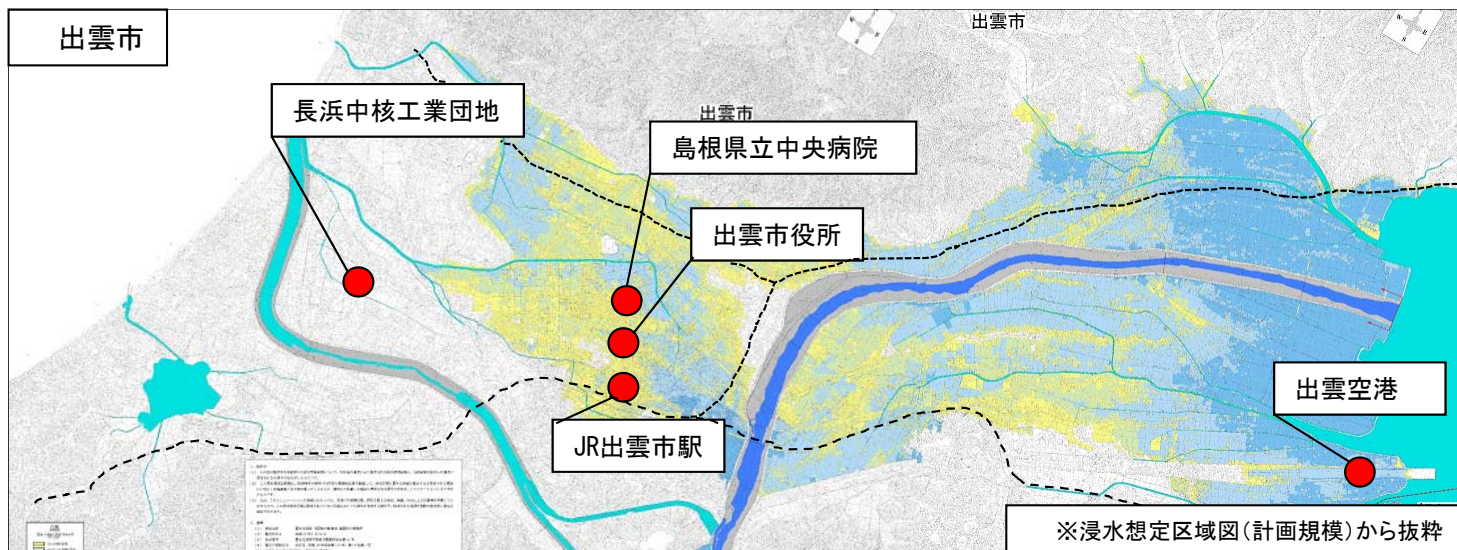


朝日町(JR松江駅周辺)(松江市)

※浸水面積について、出雲市、雲南市は市の合計が公表されていないので除外。

# ○氾濫シミュレーション（計画規模）

○斐伊川において計画規模の外力による浸水想定区域図及び、堤防が決壊した際の氾濫シミュレーション結果を「浸水ナビ」としてウェブサイトで公表している。URLは次のとおり。 <http://suiboumap.gsi.go.jp/ShinsuiMap/Map/>



**松江市**

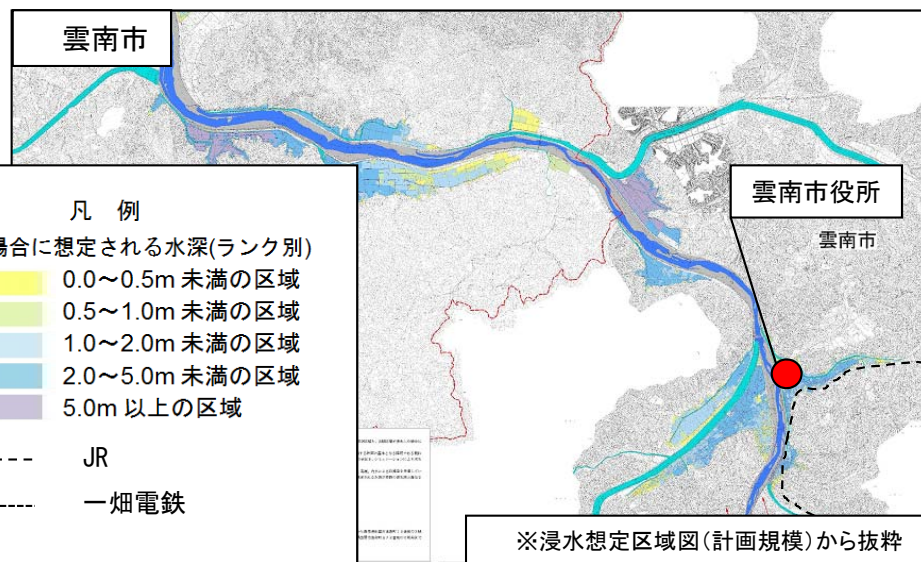
- ・松江市役所、JR松江駅、国道など主要な施設が浸水（拡散型氾濫）
- ・浸水が長期に及ぶため、水平避難が必要

**出雲市**

- ・出雲市の主要な施設を含む多くの区域が浸水（拡散型氾濫）
- ・浸水が長期に及ぶため、水平避難が必要

**雲南市**

- ・雲南市の中心部等が深く浸水（貯留型氾濫）
- ・浸水が深くなるため、場所によっては水平避難が必要



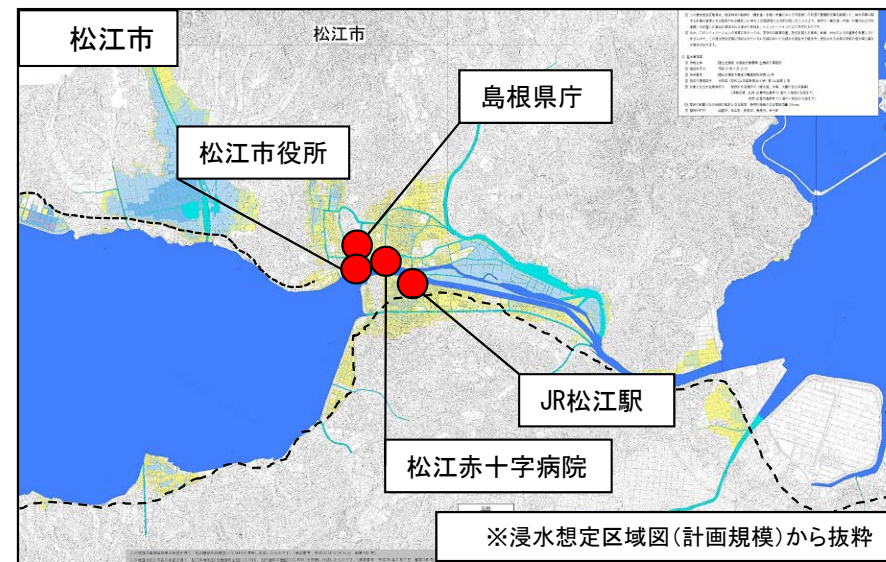
凡例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.0～0.5m 未満の区域
- 0.5～1.0m 未満の区域
- 1.0～2.0m 未満の区域
- 2.0～5.0m 未満の区域
- 5.0m 以上の区域

----- JR

----- 一畑電鉄



# ○現状の堤防整備状況

- 堤防整備率は、斐伊川水系全体で46.4%。
- 計画断面に対して高さや幅が不足している区間があり、洪水により氾濫する恐れがある。



— : 計画断面堤防  
— : 未整備区間

国が管理している堤防・湖岸堤防の延長及び整備率

河川名	堤防必要延長(km)	計画断面堤防延長(km)	整備率
斐伊川水系	237.4	110.2	46.4%

平成27年3月現在

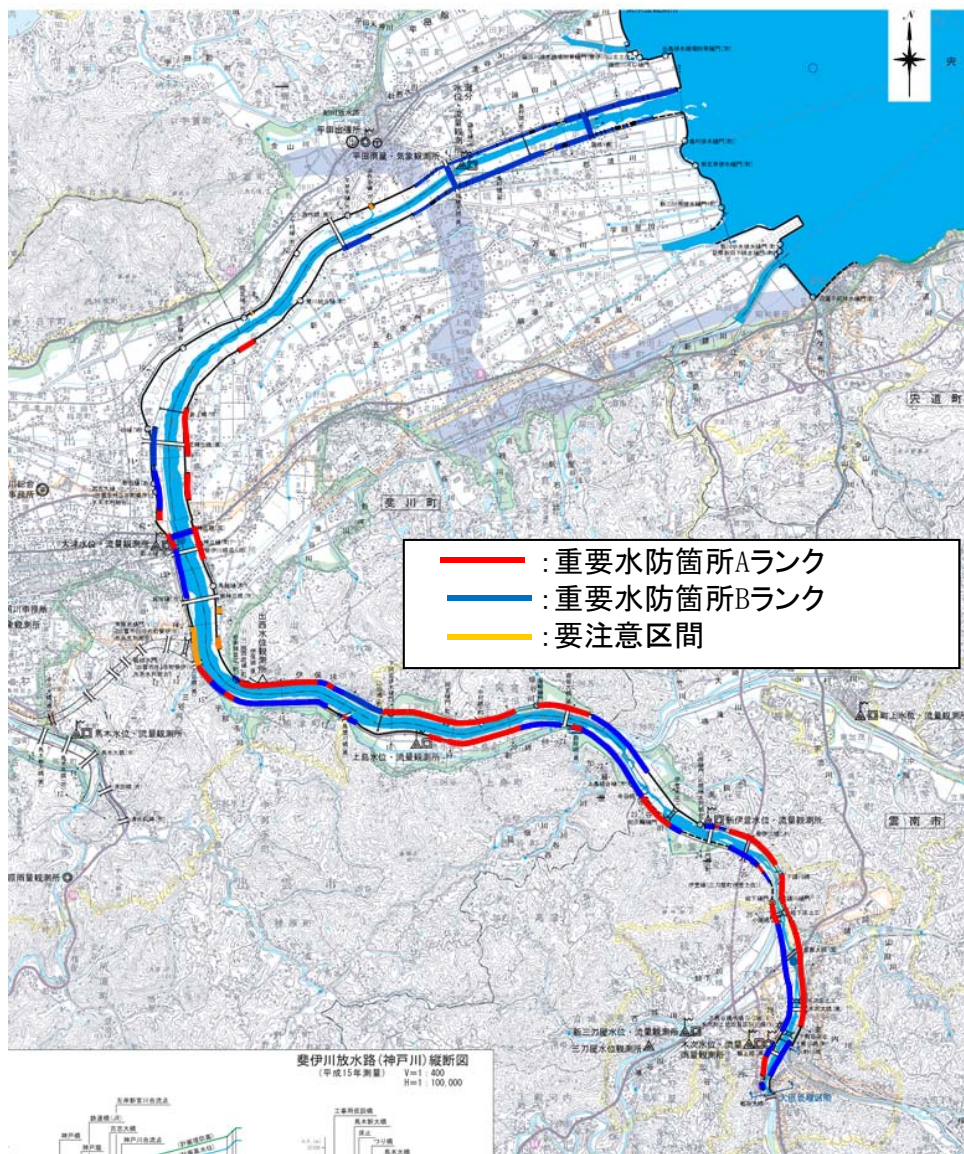
※中海は堤防高のみで評価

※計画断面堤防とは、計画高水位以下の水位の流水を安全に流下させることを目的として必要となる標準的な堤防の断面形状を有する堤防。



# ○重要水防箇所

○現在の堤防の高さや幅、過去の漏水の実績などから、あらかじめ水防上特に注意を要する区間を定め重要度に応じて重要水防箇所として指定している。



## ■Aランク指定区間

斐伊川	13.68km(出雲市)
	6.1 km(雲南市)
宍道湖	0.86km(出雲市)
	10.84km(松江市)
大橋川	23.1 km(松江市)

## ■堤防高

Aランク: 堤防の高さや河道の流下能力が不足し、現況の河道において計画規模の流量が流れた場合の水位が堤防高を越える箇所。

Bランク: 現況の河道において計画規模の流量が流れた場合の水位と現況の堤防高の差が、計画断面堤防として必要な余裕高に満たない箇所。

## ■堤防断面

Aランク: 計画断面堤防(標準的な堤防の断面形状)に対して、現況堤防の断面積や天端幅が半分に満たない箇所。

Bランク: 計画断面堤防(標準的な堤防の断面形状)に対して、現況堤防の断面積や天端幅が不足しているが、半分以上はある箇所。

## ■法崩れ・すべり・漏水

Aランク: 過去に法崩れ・すべりの実績や、漏水の履歴があり、その対策が未施工の箇所。

Bランク: 過去に法崩れ・すべりの実績や、漏水の履歴があるが、その対策が暫定施工の箇所。また、すべり破壊に対する安全度が基準値以下の箇所や、基礎地盤及び堤体の土質等からみて漏水が発生する恐れのある箇所、所要の対策が未施工の箇所。

## ■要注意区間

新堤防で築造後3年以内の箇所及び破堤跡又は旧川跡の箇所。

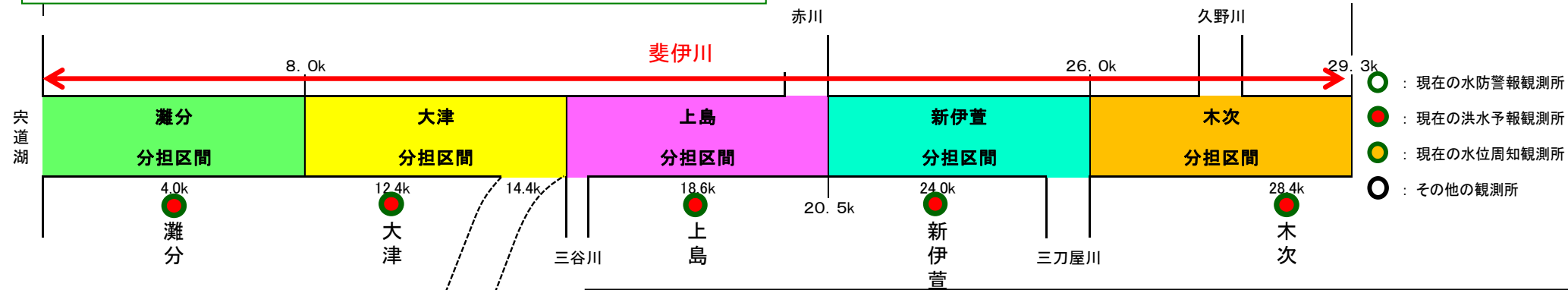
## (2) 現状の減災にかかる取組状況等

### ① 情報伝達、避難計画等に関する事項

# ○洪水時における河川事務所からの情報提供等の内容及びタイミング

- 斐伊川・神戸川では避難勧告の発令判断の目安となる氾濫危険情報の発表等の洪水予報を実施している。
- 洪水予報等の防災情報が持つ意味や防災情報を受けた場合の対応について、共有しておく必要がある。
- 氾濫危険水位は、受け持ち区間内の危険箇所において氾濫がはじまる水位を基準水位観測所の水位に換算し避難に必要な時間を考慮して決定している。

**氾濫危険水位** 市町村長の避難勧告等の発令判断の目安  
**避難判断水位** 市町村長の避難準備情報等の発表判断の目安  
**氾濫注意水位** 水防団の出動の目安  
**水防団待機水位** 水防団の待機の目安



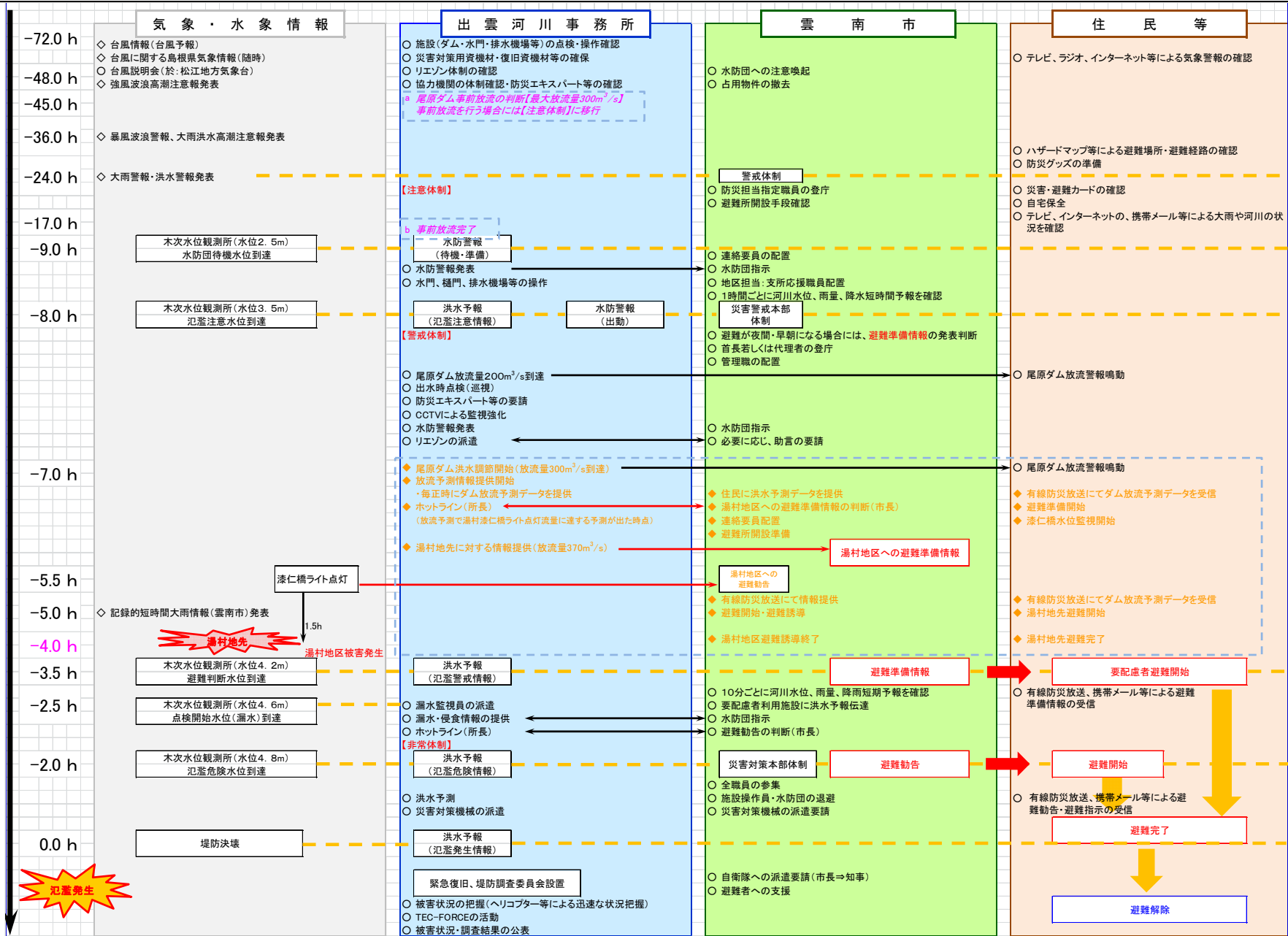
**出雲河川事務所水防基準水位一覧表**

(水位: 読み値(m))

河川名	基準観測所名	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	計画高水位	所管市町
斐伊川	木次	2.5	3.5	4.2	4.8	5.5	雲南市
	新伊萱	2.5	3.4	4.3	5.0	5.3	雲南市、出雲市
	上島	2.9	4.0	5.7	6.3	7.9	出雲市
	大津	1.6	2.5	2.9	3.2	3.6	出雲市
	灘分	2.0	2.8	4.4	4.6	4.8	出雲市
宍道湖・大橋川	松江	0.8	1.2	1.4	1.4	2.5	出雲市、松江市
中海	中海湖心	0.7	0.9	0.9	0.9	1.3	出雲市、松江市、米子市、境港市
神戸川	馬木	3.0	3.5	6.3	7.0	7.0	出雲市
	古志橋	1.6	3.1	5.0	5.4	5.5	出雲市

# ○避難勧告の発令基準

○地域防災計画に避難勧告の発令基準が記載されている。  
 ○地域防災計画に、より具体的に避難勧告の発令のタイミングや対象範囲を記載したり、タイムラインの作成を進める必要がある。

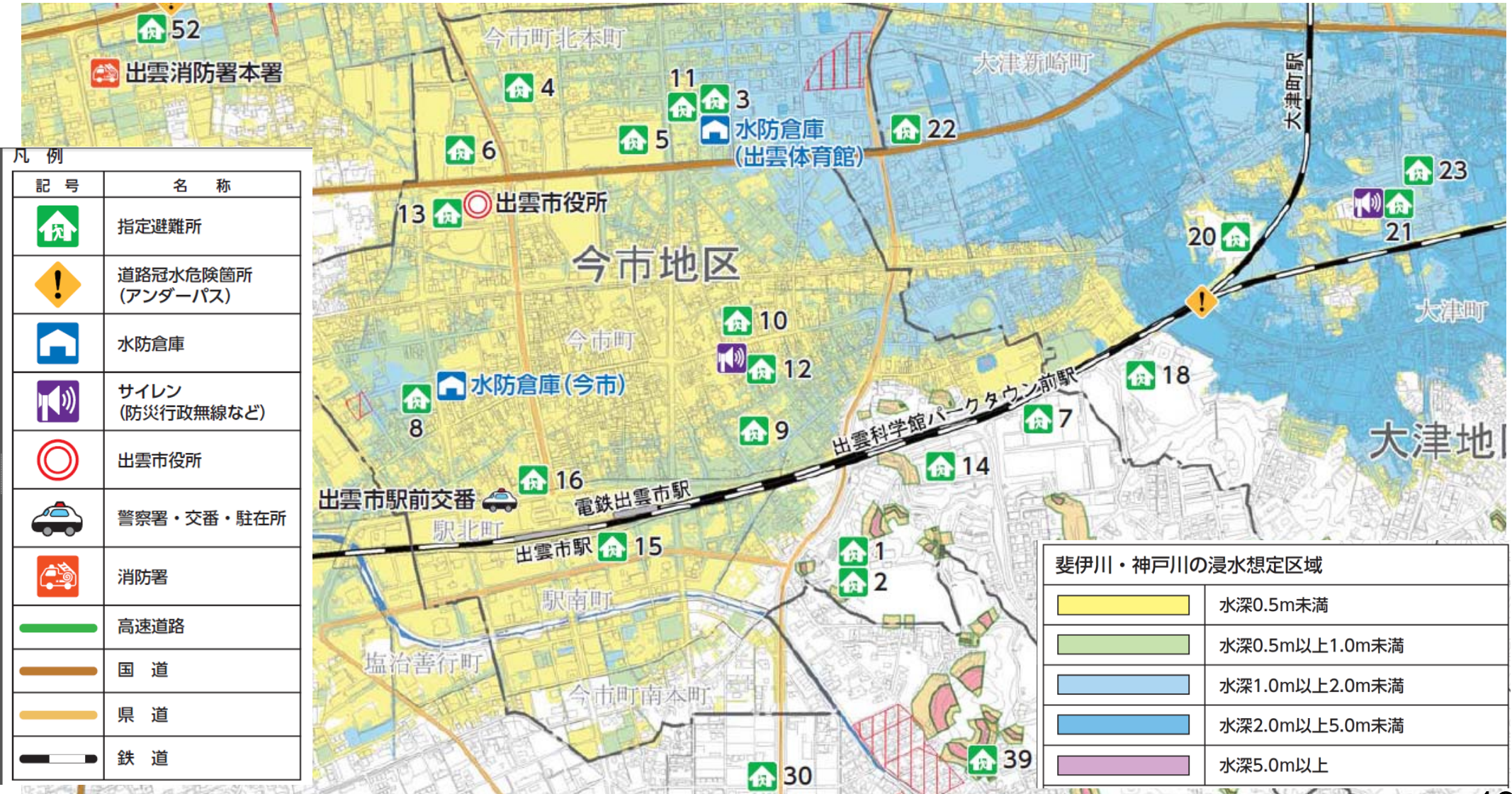


※避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン(案)(内閣府:平成26年4月)を参考に作成。また、都道府県からの情報もあるが、割愛している。  
 ※時間経過や対応項目については昭和40年7月洪水による気象状況、現在の防災業務に関する計画等を参考に記載している。  
 ※このタイムラインは住民避難勧告の発令に着目したものであり、今後台風接近等の事態に至った場合の対応を実施し、その有効性の検証を行い、実践的に改善するものである。

雲南市タイムライン(暫定版)平成27年度作成

# ○避難場所・避難経路

- 各市の地域防災計画において、地区毎に避難場所を設定している。
- 関東・東北豪雨では、湛水エリア内に避難所が設定されていたため、湛水が浅い避難所以外は利用できなかったことを踏まえ、改めて避難所の浸水深を確認することが必要
- 大規模水害時には、市内の広範囲が浸水する場合等を想定し、市内だけでなく隣接自治体の避難場所への広域避難や避難経路についても事前に検討・調整しておく必要がある。



# ○住民等への情報伝達の体制や方法

○河川水位、洪水予報、CCTV映像の情報をウェブサイトやテレビを通じて伝達している。  
 ○情報の入手のしやすさや切迫感の伝わりやすさを向上させる必要がある。

## NHKデータ放送の例

### 放送画面(NHK松江放送局提供)

斐伊川	大津	神戸川	赤川	斐伊川	三刀屋川	久野川	斐伊川
灘分	大津	馬木	町上	新伊萱	木次	坂山橋	日の出橋
1.3m	0.35m	0.3m	-0.16m	0.87m	1.69m	1.07m	0.37m

各県の放送局毎に4~6枚程度の画面を作成。リモコンの上下で切り替える。

雨量観測所は、地図上の円で位置を表示。濃淡で雨の強さを表示。

水位観測所は、地図上の四角で位置を表示。選択した観測所は四角が点滅し、下部の詳細情報と現在の水位危険度レベルを表示。

## ウェブサイトで閲覧できる情報の例

出雲河川事務所ウェブサイト  
 URL: <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/index.html.html>

## (2) 現状の減災にかかる取組状況等

### ② 水防に関する事項

# 河川の巡視

- 出水時には水防団等と河川管理者がそれぞれ河川巡視を実施している。
- 堤防決壊の恐れのある箇所では土のう積み等の水防活動が的確に行われるよう、河川巡視で得られた堤防や河川水位の情報を河川管理者と水防団等で共有する必要がある。



出水時の巡視



水防活動 3k100付近(右岸)

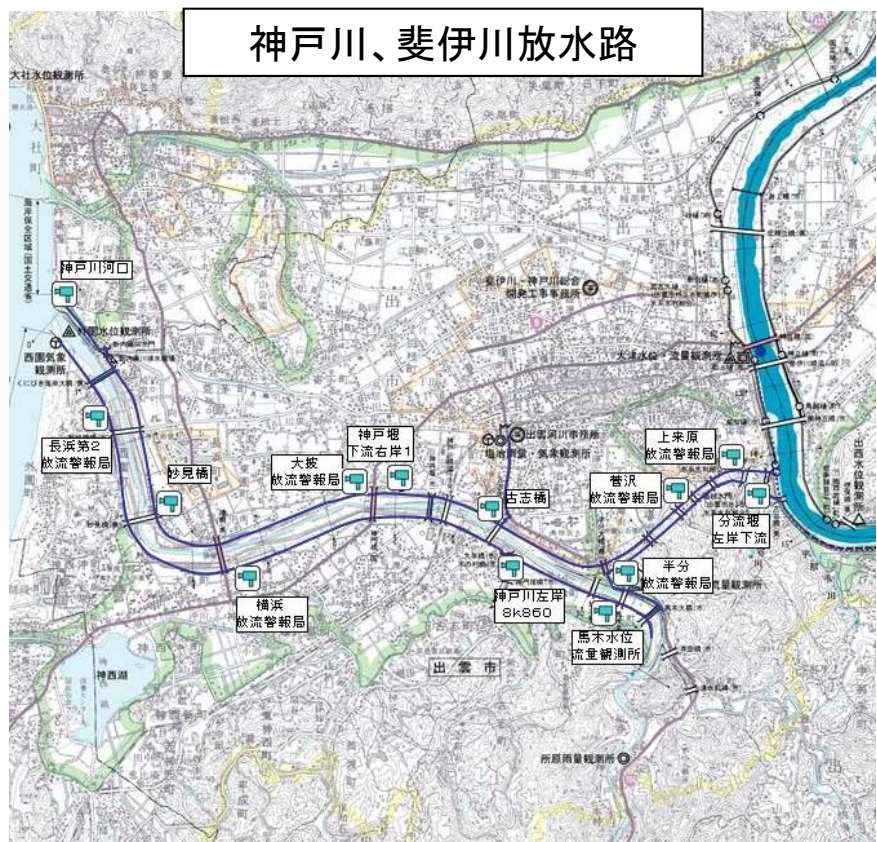


出張所名	班名	巡視距離 (km)
大橋川出張所	第1班	9.9
	第2班	25.0
	第3班	7.8
	第4班	14.7
	第5班	30.3
	計	87.7
平田出張所	第1班	16.1
	第2班	15.2
	第3班	14.8
	第4班	14.4
	第5班	8.0
	計	68.5
放水路	第1班	16.1
	第2班	15.2
	第3班	14.8
	計	46.1
合計		141.8




# 河川水位等に係る情報提供

- 河川管理用カメラ映像を、出雲河川事務所を介して沿川の雲南市には動画を配信する予定(平成28年3月完成予定)。松江市及び出雲市についても、平成28年度以降、動画を配信できるよう施設整備を行う予定。
  - 現在、斐伊川本川、宍道湖、中海、境水道に設置している全てのカメラと斐伊川放水路、神戸川に設置している一部のカメラについて、ライブ映像(静止画)をウェブサイトで公開。
- 沿川住民に対し迫り来る危機を認識させるには、避難のトリガーとなり得るカメラを選定し、リアルタイムでの動画配信を検討する必要がある。



凡例



河川管理用カメラ

例: 斐伊川放水路の分流

# ○水防資器材の整備状況

○水防資器材については、河川管理者と水防管理団体が各々水防倉庫等に備蓄している。  
 ○水防団等と河川管理者が連携して的確な水防活動を推進するため、資器材にかかる情報を共有し、適切な配置の検討する必要がある。

平成27年4月1日現在

国(出雲河川事務所)の備蓄状況		
土砂(斐伊川本川)	m <sup>3</sup>	11,824
土砂(宍道湖)	m <sup>3</sup>	7,100
根固めブロック(2t凸型)	個	1,044
連節ブロック(35-A型)	個	720
大型土のう袋	枚	115
土のう袋	枚	4,090
平田出張所	枚	1,890
大橋川出張所	枚	1,200
中海出張所	枚	1,000
大型土のう	袋	130

水防管理団体(松江市)の備蓄状況		
土のう袋	枚	15,400

水防管理団体(出雲市)の備蓄状況		
土のう袋	枚	77,000

水防管理団体(雲南市)の備蓄状況		
土のう袋	枚	9,750

## (2) 現状の減災にかかる取組状況等

### ③ 河川管理施設の整備に関する事項

# ○河川管理施設の整備に関する事項

- 斐伊川水系河川整備計画を平成22年9月に作成。
- 過去の被災状況、上下流の治水バランス、事業効果の早期発現等を踏まえた整備順序に従い事業を推進。

## ■斐伊川水系河川整備計画における整備順序の概略工程表

整備箇所	優先順位	主な整備内容	河川整備計画対象期間	
			短期	中期
ダム・放水路	(1)-①	尾原ダム・志津見ダムの建設 斐伊川放水路及び神戸川の河川整備	→	→
斐伊川本川	(3)	堤防の整備 支川合流点処理	→	→
	(4)	堤防強化対策	→	→
宍道湖	(3)	湖岸堤防の整備	→	→
大橋川	(2)	狭窄部の拡幅（堤防の整備含む）	→	→
		堤防の整備（計画高水位まで） 水門等の整備	→	→
		堤防の整備（計画堤防高まで）	→	→
中海・境水道	(1)-②	湖岸堤防の整備	→	→

### ○整備実施後における効果

現時点

※斐伊川水系河川整備計画より抜粋

- 斐伊川本川、宍道湖、大橋川  
整備計画で定めた河川・湖岸堤整備の実施後には、戦後最大の被害をもたらしたS47年7月洪水が再び発生した場合でも、家屋の浸水被害の発生を防止
- 中海  
整備計画で定めた中海護岸堤整備の実施後には、既往最高水位（H15.9）に対し、浸水被害の発生を防止

# ○河川管理施設の整備に関する事項（斐伊川3点セット）

○整備計画作成後、3点セットのうち、尾原ダム、志津見ダム、斐伊川放水路が完成。

## ○治水計画の考え方

上流・中流・下流でそれぞれ機能を分担し  
流域全体の治水安全度を高める。

### 2 斐伊川放水路の建設と 斐伊川本川の改修

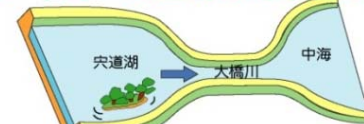


斐伊川放水路  
(H25.6完成)



2,000m<sup>3</sup>/s分流

### 1 大橋川改修と 中海・宍道湖の湖岸堤の整備



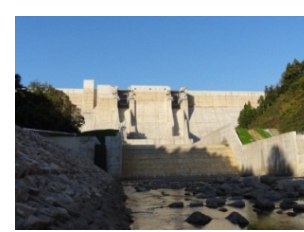
(H23.8より29年ぶり再開)

### 3 志津見ダム (H23.6完成)



馬木地点で700m<sup>3</sup>/s調節

### 尾原ダム (H24.3完成)



上島地点で600m<sup>3</sup>/s調節

斐伊川水系  
流域面積2,540km<sup>2</sup>

日本海

島根半島

境港

3,900m<sup>3</sup>/s

境水道

境港市

美保湾

米子空港

H.P. +1.30

中海

松江道路

米子市

米子道路

安来道路

安来市

松江道路

山陰自動車道

H.P. +2.50

宍道湖

110m<sup>3</sup>/s

1,600m<sup>3</sup>/s

大橋川

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

松江道路

4,200m<sup>3</sup>/s

大社湾

神西湖

2,000m<sup>3</sup>/s 分流

斐伊川放水路

馬木

2,400m<sup>3</sup>/s

上島

4,500m<sup>3</sup>/s

尾原ダム

雲南市

志津見ダム

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

飯南町

斐伊川

流域面積2,070km<sup>2</sup>

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

奥出雲町

鳥取県

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

船通山

# ○河川管理施設の整備に関する事項（斐伊川3点セット）

○下流部の大橋川改修は、平成23年8月に着手し、これまでに天神川水門等が完成するとともに、下流拡幅部の工事を推進。

## 大橋川改修 工事状況（平成28年3月1日現在）



向島川樋門新設工事

- ・樋門の型枠を取り外しました。
- ・埋戻しを行い、埋戻し完了後は排水門前後の地盤改良を行います。



下流側より撮影

矢田地区築堤護岸外工事

準備工を終えました。  
今後、地盤改良の施工に着手します。



上流側より撮影

下流側より撮影

竹矢地区第2築堤護岸外工事

上流側のブロック積の施工を行っています。



上流側より撮影

下流側より撮影

富富地区築堤護岸外工事

築堤護岸が完了し、工食用道路の撤去を行っています。

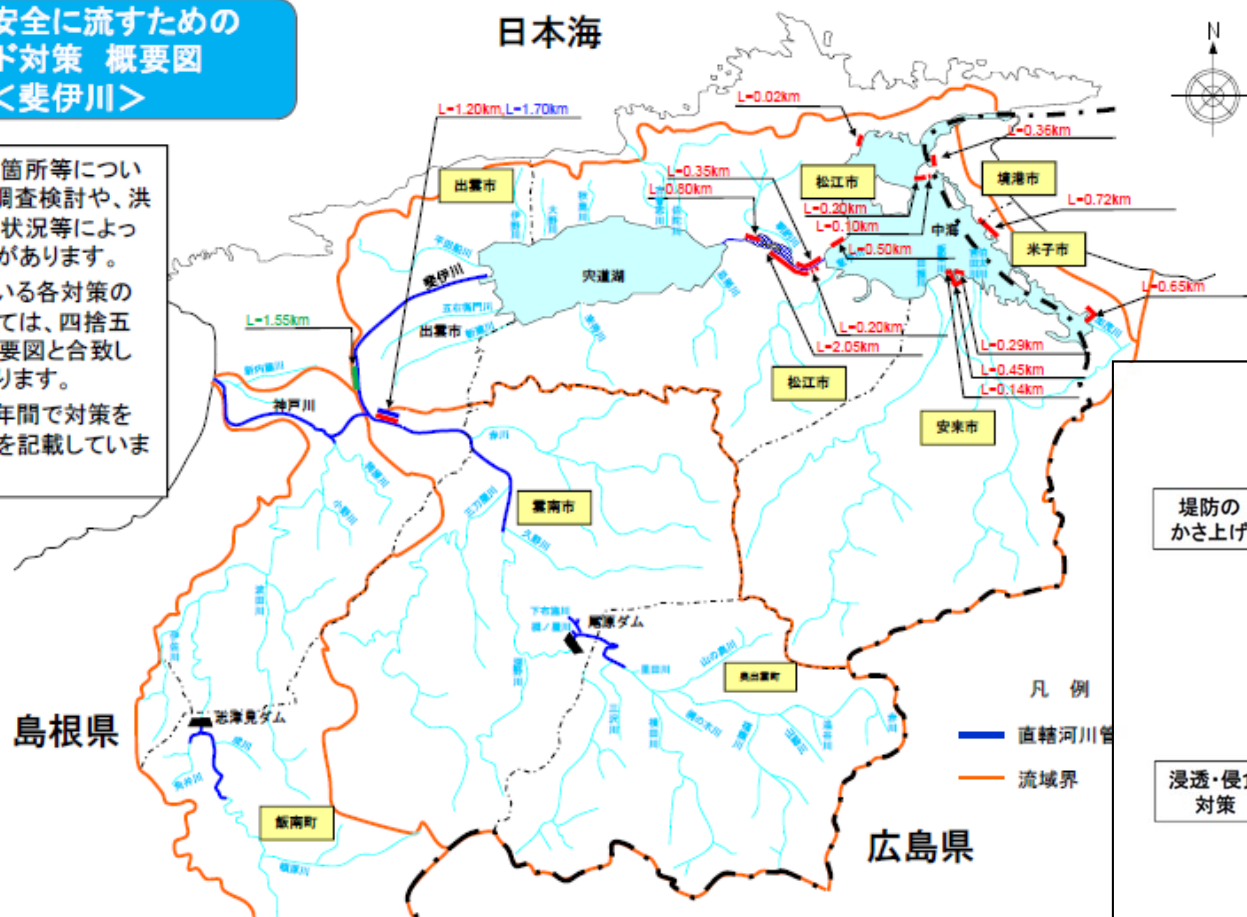
# ○河川管理施設の整備に関する事項

## 洪水を安全に流すためのハード対策の促進

○斐伊川本川や大橋川において、堤防の浸透対策、パイピング対策、流下能力対策を行うとともに、大橋川改修事業の促進を図る。

### 洪水を安全に流すための ハード対策 概要図 ＜斐伊川＞

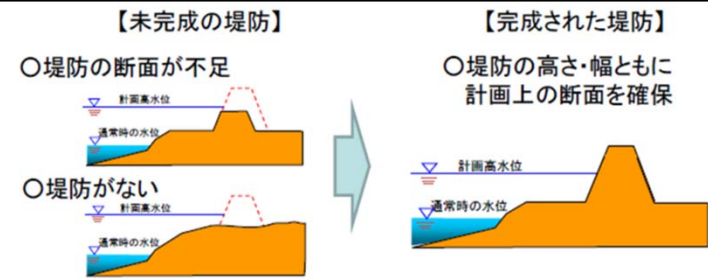
※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。  
※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。  
※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。



○流下能力が著しく不足している、あるいは漏水の実績があるなど、優先的に整備が必要な区間約10.1kmについて、平成32年度を目途に堤防のかさ上げや浸透対策などの対策を実施。

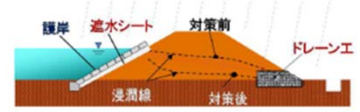
堤防のかさ上げ

浸透・侵食対策



### ＜浸透や侵食に対する対策工法＞

＞ドレーン工、護岸や遮水シートの設置等、浸透や侵食に対する安全性を確保するための対策を実施



ドレーン工、護岸や遮水シートの設置例

凡例	浸透対策	パイピング対策
	流下能力対策	侵食対策

実施区間延長 (重複無し)	内訳			
	浸透対策	パイピング対策	流下能力対策	侵食対策
10.1km	1.6km	1.7km	8.0km	—

## (2) 現状の減災にかかる取組状況等

### ④ 氾濫水の排水、施設運用等に関する事項



# ○施設運用等に関する事項 (志津見ダムの洪水調節機能)

## ①洪水調節

志津見ダム地点の計画高水流量 $1,400\text{m}^3/\text{s}$ のうち $900\text{m}^3/\text{s}$ を貯留し、斐伊川放水路と相まって神戸川及び斐伊川下流部の水害を防除する。

## ②洪水時におけるダム操作

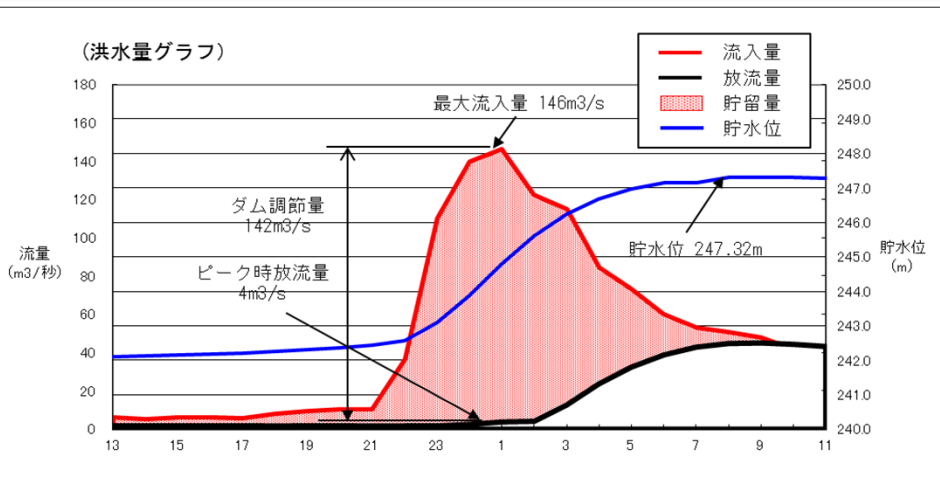
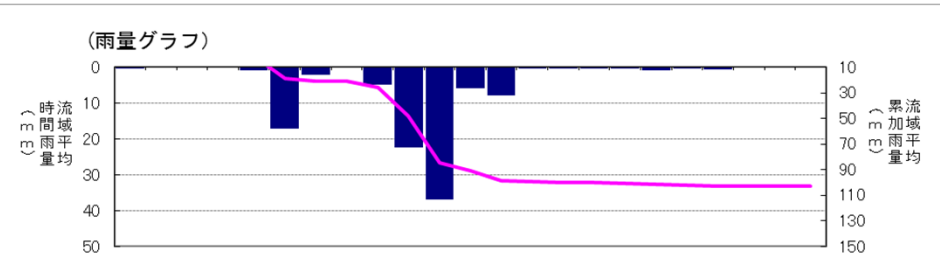
志津見ダムは洪水調節用のゲートが無い「自然調節方式」のダム。

洪水時には、ダムの貯水位が「常用洪水吐き（写真参照）」の高さまで上昇すると、そこから自然に流れ出す仕組みとなっており、流れ出る水量はダムの貯水位に応じて変化する。



## ③ダム運用の実績【平成24年7月6日出水での事例】

- 志津見ダムの流域平均累加雨量は $104.3\text{mm}$ 、流入量は最大 $146\text{m}^3/\text{s}$ 、最大流入量時の放流量は $4\text{m}^3/\text{s}$ 、調節量は $142\text{m}^3/\text{s}$ 。
- 志津見ダムの洪水調節により、ダム下流の仁江地点（出雲市佐田町窪田付近）では、約 $1.2\text{m}$ の水位を低減させる効果があった。



佐田町の窪田小学校前（仁江橋から上流側を望む）

# ○施設運用等に関する事項（尾原ダムの洪水調節機能）

## ①洪水調節

尾原ダム地点の計画高水流量 $2,500\text{m}^3/\text{s}$ のうち、 $1,600\text{m}^3/\text{s}$ を貯留し、斐伊川沿川地域の水害を防除する。

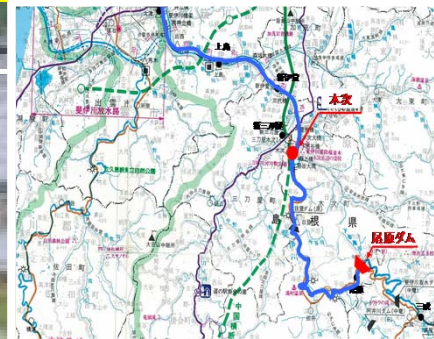
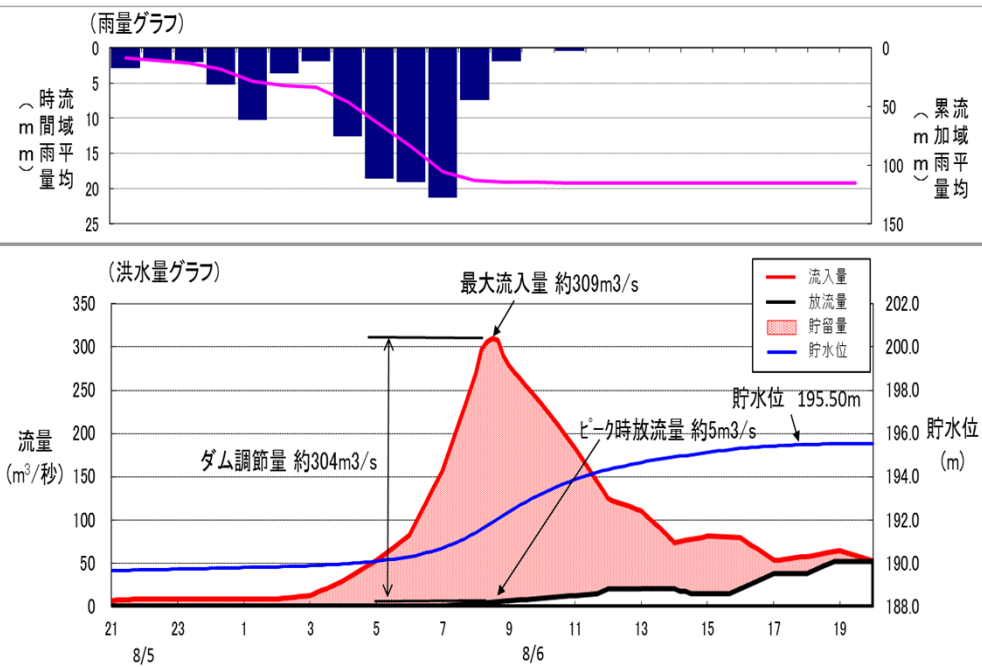
## ②洪水時におけるダム操作

下流の河川で被害が発生する恐れがある流量に達したときから、ダムでは洪水調節を開始して下流河川へ流す水の量を調節する。



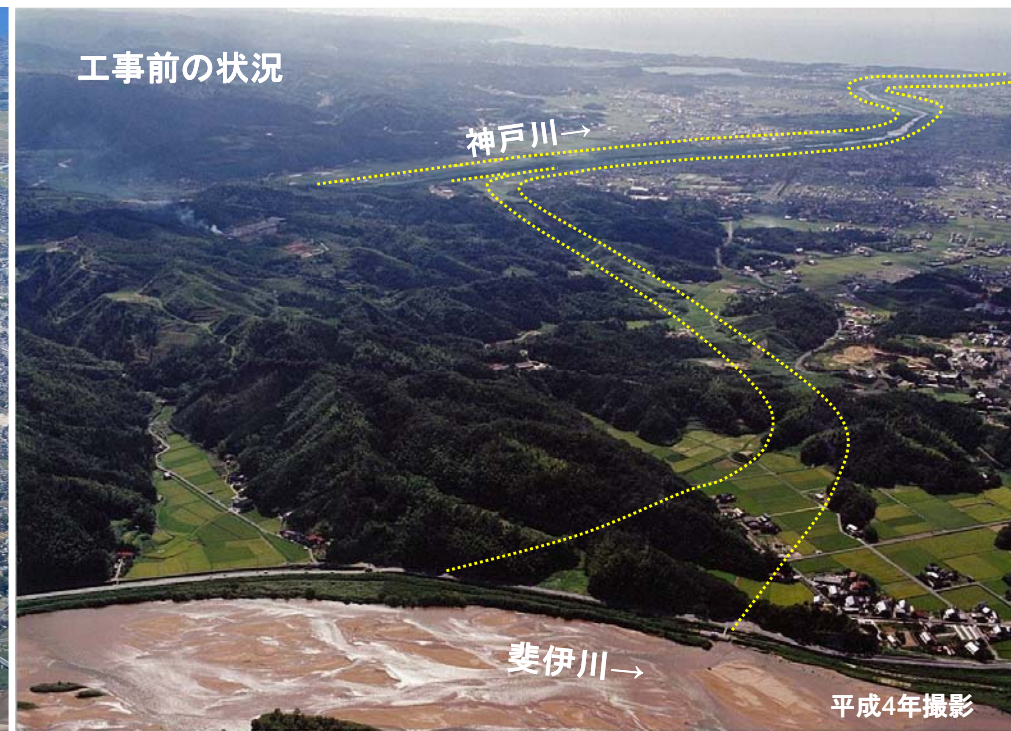
## ③ダム運用の実績【平成26年8月5日出水での事例】

- 尾原ダムの流域平均累加雨量は $122.3\text{mm}$ 、流入量は最大 $309\text{m}^3/\text{s}$ 、最大流入時の放流量は $5\text{m}^3/\text{s}$ 、調節量は $304\text{m}^3/\text{s}$ 。
- ダム下流の木次地点（雲南市木次付近）では、約 $1.1\text{m}$ の水位を低減させる効果があった。

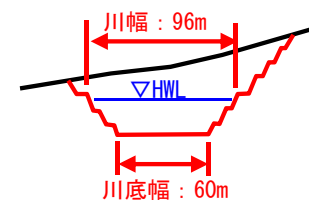


木次町の木次大橋上流

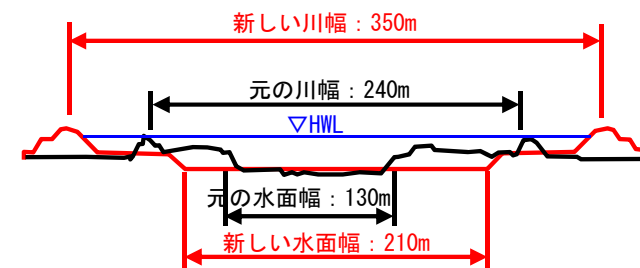
# ○施設運用等に関する事項（斐伊川放水路の概要）



開削部標準横断面図（河口から11k600付近）



拡張部標準横断面図（河口から7k000付近）



斐伊川放水路の標準横断面図

## 斐伊川放水路事業の主な内容

【掘削土量】	約 1,100万m <sup>3</sup>
【築堤土量】	約 400万m <sup>3</sup>
【橋梁】	25橋
【堰改築】	1箇所
【分流堰】	1箇所
【水門】	1箇所
【排水機場】	2箇所
【用地買収】	約 322ha
【家屋補償】	437戸



分流堰

# ○施設運用等に関する事項（斐伊川放水路の概要）

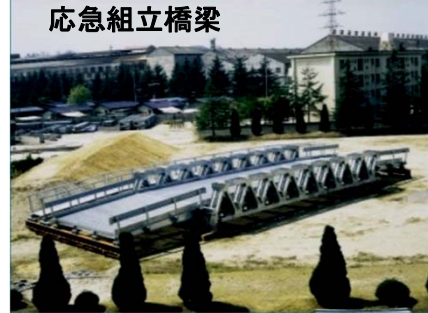
- 平成25年6月の運用開始から4回の分流を行った。
- 斐伊川放水路への分流は、上島水位観測所が水防団待機水位（2.9m）に達する前に自然分派が始まる。

	分流開始	分流終了	斐伊川本川 最大流量	最大分流量
1回目	平成25年 9月 4日 5時30分頃	平成25年 9月 5日 4時10分頃	約1,250m <sup>3</sup> /s	約550m <sup>3</sup> /s
2回目	平成25年10月24日 15時30分頃	平成25年10月25日 23時20分頃	約 530m <sup>3</sup> /s	約200m <sup>3</sup> /s
3回目	平成26年 8月17日 12時50分頃	平成26年 8月18日 0時10分頃	約 700m <sup>3</sup> /s	約270m <sup>3</sup> /s
4回目	平成26年10月13日 23時45分頃	平成26年10月14日 4時52分頃	約 440m <sup>3</sup> /s	越流のみ※

※堰を越流したのみで、ゲートの倒伏操作をしていない。

# ○排水施設、排水資機材の操作・運用

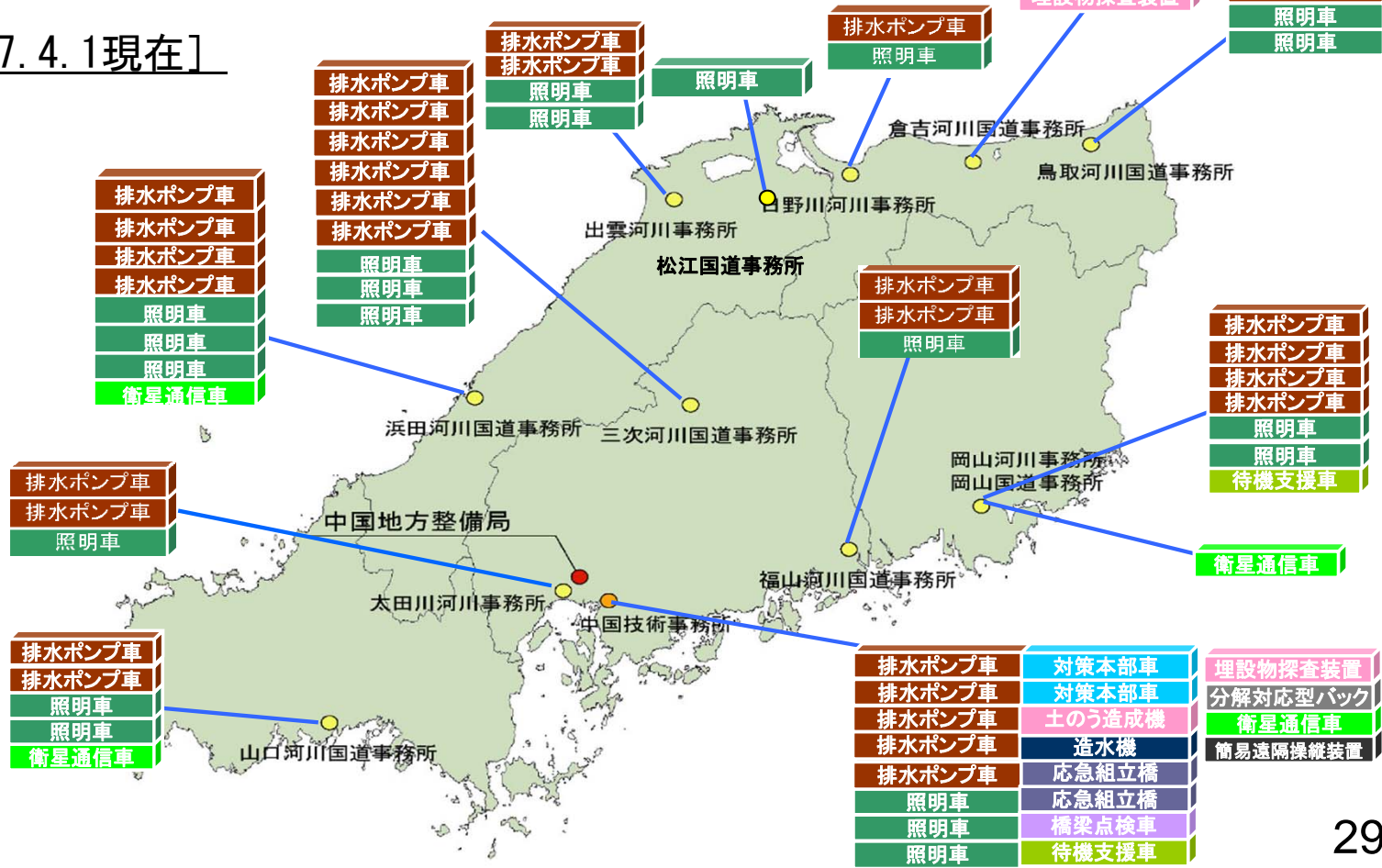
○排水ポンプ車や照明車等の災害対策車両・機器は平常時から定期的な保守点検を行うとともに、機械を扱う職員等への教育体制も確保し、常時、災害発生による出動態勢を確保



- 対策本部車
- 排水ポンプ車
- 排水ポンプ車
- 排水ポンプ車
- 照明車
- 照明車
- 照明車
- 衛星通信車
- 造水機
- 橋梁点検車
- 待機支援車
- 簡易遠隔操縦装置
- 埋設物探査装置
- 排水ポンプ車
- 排水ポンプ車
- 照明車
- 照明車

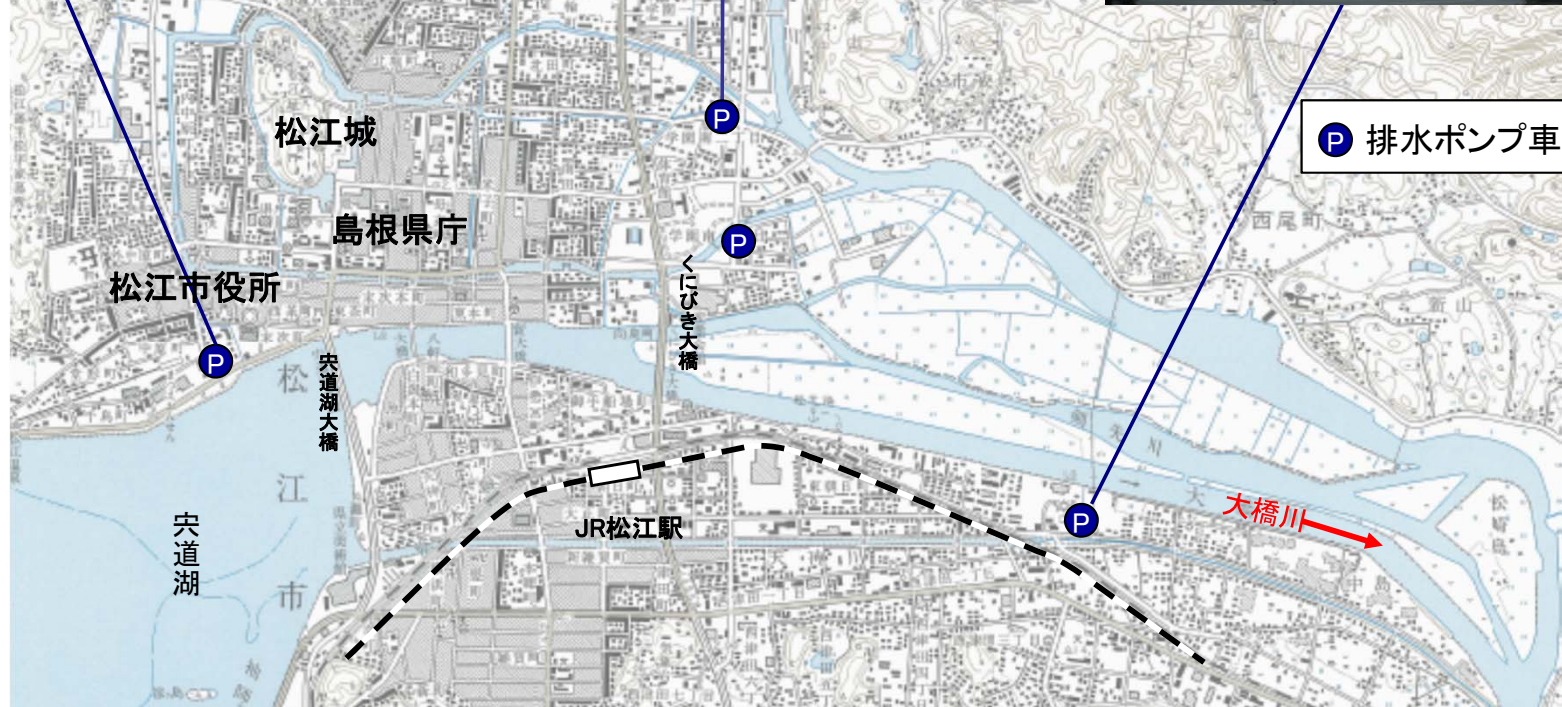
## 災害対策用機械配備一覧 [H27. 4. 1現在]

機 械 名	台 数
対策本部車	3
排水ポンプ車	33
照明車	24
衛星通信車	5
土のう造成機	1
造水機	2
応急組立橋梁	2
橋梁点検車	2
待機支援車	3
遠隔操縦装置	2
埋設物探査装置	2
分解対応型バックホウ	1
計	80



# ○排水施設、排水資機材の操作・運用

○平成18年7月梅雨前線出水時では、排水ポンプ車(斐伊川本川1台、大橋川4台)により氾濫水の排水を実施し、最大3日間で宅地及び公共施設等の浸水が概ね解消。



P 排水ポンプ車配置箇所

○四国地方整備局、九州地方整備局、中国技術事務所、倉吉河川国道事務所の排水ポンプ車が支援